資　料　３

# 都心臨海部再生マスタープラン（仮称）　検討資料

＜目次＞

１．　都心臨海部再生マスタープラン（仮称）の策定の趣旨
２．　都心臨海部再生マスタープラン（仮称）の位置づけと各地区のこれまでのまちづくり
３．　都心臨海部の現状
４．　都心臨海部強化に向けた考え方

４－１　「都心臨海部の魅力増幅」
４－２　「機能連携を強化する回遊性づくり」
４－３　「世界に誇れる次世代の環境づくり」
４－４　「都心の活動を支える安全・安心づくり」
４－５　「市民参加による持続的な価値とコミュニティづくり」

# １．都心臨海部再生マスタープラン（仮称）の策定の趣旨

**【なぜ今、都心臨海部再生マスタープラン（仮称）が必要なのか】**

安政６年（1859 年）の開港以来、都心臨海部は横浜の中心地として発展してきました。昭和 40 年（1965 年）には、横浜の骨格を築く「横浜の都市づくり将来計画の構想（6 大事業）」を発表し、都心部強化事業として、みなとみらい 21 地区の造成に着手し、現在の横浜都心部が形成してきました。

今日では、「横浜の都市づくり将来計画の構想」発表より約 50 年が経過し、以下のような社会状況の変化が想定されており、横浜のまちづくりとしての対応が求められています。

- ○ **人口減少・超高齢社会の到来による都市の活力低下**
- ○ **2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定による、東京への一極集中の更なる進行**
- ○ **羽田空港国際化に伴う都市間競争の激化**
- ○ **リニア中央新幹線をはじめとする広域交通インフラの整備**
- ○ **地球規模で進行する気候変動への対応**
- ○ **市民の価値観やライフスタイルの更なる多様化　　など**

また、平成 22 年（2010 年）には、横浜市インナーハーバー検討委員会から、都心臨海部・インナーハーバーにおけるまちづくりの方向性が提言されました。

将来の社会状況の変化に対応し、**将来にわたり輝き続け、魅力にあふれた”世界都市”の顔としての都心臨海部を形成**します。そのため、中長期を見据えた都心臨海部再生マスタープランを策定します。マスタープランには、横浜市民をはじめ、事業者、行政、NPO など、まちづくりに関わる多様な関係者・団体の**共通指針となる、目指すべき将来像や、その実現に向けた戦略・地区別の方向性を描き、より一層魅力あるまちづくりを推進**します。

**【目標年次】**

2050 年（※第一段階の目標年次は 2025 年とします。）

**【計画の範囲】**

○　横浜駅周辺地区、みなとみらい２１地区、関内・関外地区、山下ふ頭周辺地区、東神奈川臨海部周辺地区の５地区を範囲とします。

**考え方**

将来の社会状況の変化に対応し、国内外から選ばれる都市ヨコハマをつくるうえで、都心臨海部の重要性は更に高まります。そのため、従来の横浜都心に隣接し、かつ、横浜最大の資源である「港」に面しているなど、都心に必要な新たな機能や施設の受け皿となるポテンシャルを有する東神奈川臨海部周辺地区と山下ふ頭周辺地区の２地区を新たに加えます。

※　瑞穂ふ頭については、都心臨海部に隣接し広大な面積を有しますが、返還合意されていないことから、返還後の活用について、参考に記述します。

# ２．都心臨海部再生マスタープラン（仮称）の位置づけと各地区のこれまでのまちづくり

## ■ 都心臨海部再生マスタープラン（仮称）の位置づけ

都心臨海部再生マスタープラン（仮称）は、各地区で取り組まれてきたこれまでのまちづくりを前提としながら、平成 22 年 3 月に提言された「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」を受けると共に、近年における**国家戦略プロジェクト**や、**現在策定中の計画**等を踏まえ、都心臨海部における市の将来構想として策定するものです。

横浜市基本構想（長期ビジョン）（H18.3 策定）

上位計画や既定計画、構想等

- 横浜市都市計画マスタープラン（全体構想）（H25.3 改定）
- エキサイトよこはま 22（H21.12 策定）
- みなとみらい 21 街づくり基本協定（H21.4 改定）
- 関内・関外地区活性化推進計画（H22.3 策定）
- 東神奈川臨海部周辺地区再編整備計画（H16.3 策定）
- 「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書（平成 22 年 3 月）
- 「ナショナルアートパーク構想」提言書（平成 18 年 1 月）　　など

国家戦略プロジェクト

- 環境未来都市（H23.12）
- 国際戦略総合特区（H23.12）
- 特定都市再生緊急整備地域（H24.1）
- グローバル MICE 戦略都市（H25.6）
- 国家戦略特区（提案中）

現在策定中の計画

- 横浜市みなとみらい 21 地区スマートなまちづくり（審議会 H25～）
- 港湾計画（山下ふ頭ほか）（H26 改訂予定）
- （山下ふ頭再開発の基本計画（H 26 年度策定予定））
- 新市庁舎整備基本計画（H25 年度末策定予定）

都心臨海部再生マスタープラン（仮称）

## ■ 各地区のこれまでのまちづくり

### 横浜駅周辺地区

鉄道６社８路線が乗り入れ、１日約 200 万人の乗降客数を数える日本有数のターミナル駅である横浜駅を中心とする地区。現在は、駅周辺建物等の老朽化が進行しており、平成 21 年に策定された「エキサイトよこはま 22」に基づき、国際都市の玄関口にふさわしいまちづくりを進めています。

※出典１

### みなとみらい 21 地区

横浜の２つの都心部（関内・伊勢佐木町地区・横浜駅周辺地区）を一体化し、横浜の自立性の強化等を目的に整備された新しい街。業務・商業機能の他、中核的 MICE 拠点であるパシフィコ横浜があり、観光地としても人気が高く、国内外から多くの人々が訪れています。

※出典２

### 関内・関外地区

開港以来の歴史を持つ市街地ですが、近年は業務・商業機能が相対的に低下しつつあります。そのため、平成 22 年に「関内・関外地区活性化推進計画」を策定し、地区の課題解決に向けた 12 の戦略に基づくまちづくりが進められています。

### 山下ふ頭周辺地区

昭和２８年に着工、昭和３８年に完成したふ頭で、主に東南アジア・中近東への輸出品を扱う港湾としての土地利用をしています。平成 26 年改訂予定の港湾計画では、都心機能の強化に向けた再開発の方向性が示されています。

### 東神奈川臨海部周辺地区

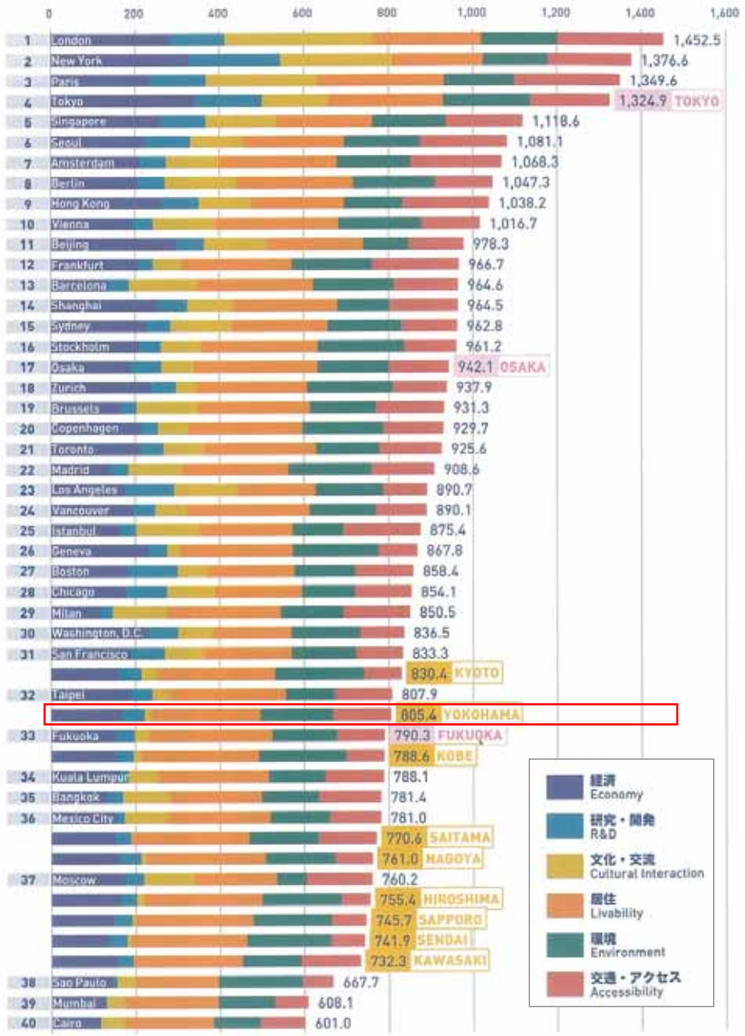
平成 13 年に「京浜臨海部地域 都市・居住環境整備基本計画」が策定され、翌年には京浜臨海地域の再生を先導する地区として指定されました。平成 16 年には「東神奈川臨海部周辺地区再編整備計画」を策定し、現在は、駅周辺の再開発や面的整備の検討が進められています。

# ３．都心臨海部の現状

## ■ 世界からみた横浜

森記念財団の世界都市総合力ランキング（Global Power City Index YEARBOOK 2012）※では、世界を代表する主要な 40 都市と比較する中で、**横浜の都市総合力は世界第 32 位（Taipei）相当**と位置づけられています。

分野別評価では、世界を代表する主要な 40 都市と比較して、**『居住』『環境』分野の評価が高く**、一方で**『経済』『文化・交流』分野は十分な評価は得られていない**状況にあります。




Global Power City Index YEARBOOK 2012　世界の都市総合力ランキング　より

※　経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセスの 6 分野から都市の総合力を比較したランキング

### ＜参考＞海外の先進的なまちづくり

○　世界を代表する主要な都市の中で、横浜と同様に港を抱える、以下の 5 都市について、近年のまちづくりの取り組みを調査すると、以下のような特徴をまとめることができます。

#### ニューヨーク【ランキング 2 位、経済分野で 2 位】

アメリカ最大の都市で、世界最高水準の都市として知られています。その中心地であるマンハッタンでは、世界の金融センターとして、国際的なビジネスが展開されている他、商業、文化、ファッション、スポーツ、エンターテイメントなどの機能が集約化されており、世界からの脚光を浴びています。

マンハッタンの風景（左：ミッドタウン、右タイムズスクエア）※出典３

#### シンガポール【ランキング５位、文化・交流分野で 5 位】

経済・物流・人材が交流するハブとして、アジアの国際ビジネス・交流の中心的な拠点の一つとされています。マーケティング戦略として、同国の主要産業分野の重点化を図ると共に、IR（統合型リゾート）の導入や、国際会議や展示会等のビジネスイベントの誘致・開催（MICE）を積極的に進めています。

中心業務地区 ※出典３

マリーナ・ベイ・サンズ（IR）※出典４

#### バルセロナ【ランキング 13 位、文化・交流分野で 6 位】

世界遺産が集積する創造都市として、歴史・文化・芸術を活かしたまちづくりが進められています。

文化芸術を軸としたまちづくり ※出典５

#### シドニー【ランキング 15 位】

ｵﾍﾟﾗﾊｳｽに代表されるｳｫｰﾀｰﾌﾛﾝﾄの開発により、世界で最も美しい都市の一つとされており、多くの人々が訪れています。

シドニーの美しい景観 ※出典６

#### バンクーバー【ランキング 24 位、居住分野で 4 位】

世界で最も住みやすい都市として評価が高く、美しい自然と居住環境が共存する都市づくりが進められています。

ウォーターフロントに広がる住宅地 ※出典７

**以下について、取り組みを一層推進する必要があります。**

**①国際的なビジネスへの対応**
**②都心機能の多様化・複合化**
**③地理的特性（ウォーターフロント）をいかした美しい都市景観・都市ブランドづくり**
**④MICE による国際競争力強化の展開**
**⑤文化・芸術等をいかした文化芸術創造都市としての都市再生**
**⑥都心居住や職住近接による生活環境整備**

# ３．都心臨海部の現状

## ■ 首都圏からみた横浜

首都圏は、平成 24 年時点で、全国の人口の約 34.1%を占め、日本の経済の面においても、全国の GDP（国内総生産）の約 37.5%のシェアを担うなど、我が国における最重要な圏域となっています。

その中で横浜は、東京から中部・関西圏へ繋がる国土軸上に位置し、また、業務核都市として、業務機能をはじめ諸機能の集積の核として重点的に整備が進められ、**我が国で東京に次ぐ第二の都市**として発展しています。

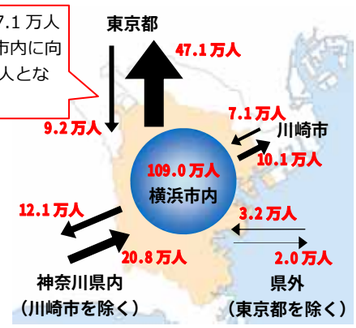
一方で、平成 22 年度の国勢調査における通勤・通学者の移動状況を見ると、市民の東京へ向かう割合が高く、**現在も東京への一極集中の状況**にあります。

また、将来的な**リニア中央新幹線の整備等に伴う大きな都市構造の変化についても対応が必要**と想定されます。

**首都圏の中で、横浜の優位性や特性を生かした役割を果たし、横浜のみならず圏域全体としての発展を目指す必要があります。**

【首都圏における横浜市の位置づけ】

横浜市都市計画マスタープラン全体構想（平成 25 年）より




【首都圏における横浜市の事業所数】

（単位：事業所）

| | 昭和61年 | 平成３年 | 平成６年 | 平成８年 | 平成11年 | 平成13年 | 平成16年 | 平成18年 | 平成21年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全国 | 6,511,741 | 6,559,377 | 6,550,245 | 6,521,837 | 6,203,249 | 6,138,312 | 5,728,492 | 5,722,559 | 6,199,222 |
| 首都圏 | 1,932,041 | 1,960,650 | 1,966,943 | 1,970,027 | 1,870,648 | 1,860,928 | 1,738,656 | 1,759,349 | 1,967,708 |
| 東京都区部 | 657,499 | 634,114 | 629,367 | 620,959 | 580,531 | 577,545 | 538,602 | 549,199 | 611,040 |
| 業務核都市計注1 | 372,777 | 395,301 | 400,025 | 406,599 | 387,210 | 385,438 | 362,142 | 367,087 | 437,807 |
| 横浜市 | 116,200 | 120,861 | 121,092 | 123,040 | 115,100 | 114,563 | 107,201 | 107,557 | 135,149 |

注１　：業務核都市に含まれる表中の市を対象とした。
市のデータは平成18年10月１日現在の境域とし、市の一部が業務核都市に指定されている場合も、市全域のデータとした。

業務核都市内の事業所数のうち、概ね３割程度を横浜市が担っている状況

首都圏整備に関する年次報告（平成 24 年度）より

【首都圏における横浜市の従業員数】

（単位：人）

| | 昭和61年 | 平成３年 | 平成６年 | 平成８年 | 平成11年 | 平成13年 | 平成16年 | 平成18年 | 平成21年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全国 | 49,224,514 | 55,013,776 | 54,366,015 | 57,583,042 | 53,806,580 | 54,912,703 | 52,067,396 | 54,184,428 | 58,442,129 |
| 首都圏 | 16,358,753 | 18,663,626 | 18,318,707 | 19,505,813 | 18,079,172 | 18,798,365 | 17,953,460 | 18,905,137 | 20,720,235 |
| 東京都区部 | 6,312,581 | 6,964,640 | 6,570,661 | 7,040,196 | 6,319,406 | 6,711,510 | 6,456,600 | 6,859,800 | 7,542,838 |
| 業務核都市計注1 | 3,300,975 | 3,941,751 | 3,986,999 | 4,243,621 | 4,001,919 | 4,123,418 | 3,936,883 | 4,188,972 | 4,750,205 |
| 横浜市 | 1,044,236 | 1,216,309 | 1,218,582 | 1,289,372 | 1,215,524 | 1,246,714 | 1,185,778 | 1,271,937 | 1,468,395 |

注１　：業務核都市に含まれる表中の市を対象とした。
市のデータは平成18年10月１日現在の境域とし、市の一部が業務核都市に指定されている場合も、市全域のデータとした。

上記同様に、業務核都市内の従業員数のうち、概ね３割程度を横浜市が担っている状況

首都圏整備に関する年次報告（平成 24 年度）より

【通勤・通学者の移動状況】
（平成 22 年国勢調査従業地・通学地集計結果より作成）

## ■ 横浜市における都心臨海部

都心臨海部は、横浜開港の地であり、現在でも数多くの市民や観光客が訪れる**港町横浜を象徴するエリア**です。また、**横浜経済の中心を担っているエリア**でもあり、面積は横浜市全体の約 2.2%でありながら、事業所数は市全体の約 14.6%、従業員数は市全体の約 22.6%、年間商品販売額は、市全体の約 30.6%を占めています。

**近年では、都心居住の動きが活性化**してきており、人口密度については、横浜市全体に比べ、都心臨海部全体では約 1.4 倍の約 117 人/ha となっています。

**将来に渡り、横浜市全体の成長を牽引するような魅力あるまちづくりを展開する必要があります。**

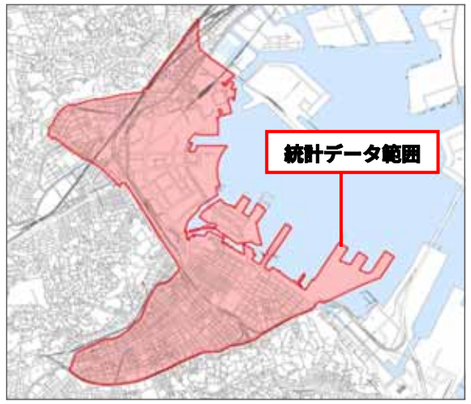
<都心臨海部の概ねの位置>

【都心臨海部及び横浜市の統計データ】

| | 都心臨海部 | 横浜市 | 都心臨海部が占める割合（都心臨海部/横浜市） |
|---|---|---|---|
| 面積 | 約 942ha | 約 43,738ha | 約 2.2% |
| 人口*1 | 約 11 万人 | 約 370 万人 | 約 3.0% |
| 人口密度 | 約 117 人/ha | 約 85 人/ha | 約 1.4 倍 |
| 世帯数*1 | 約 7 万世帯 | 約 170 万世帯 | 約 4.1% |
| 外国人人口*2 | 約 7 千人 | 約 53 千人 | 約 13.2% |
| 事業所数*3 | 約 1 万 8 千社 | 約 12 万 3 千社 | 約 14.6% |
| 従業員数*3 | 約 35 万人 | 約 155 万人 | 約 22.6% |
| 年間商品販売額*4 | 約 3.0 兆円 | 約 9.8 兆円 | 約 30.6% |

＊1: 横浜市住民基本台帳（H25.1.31）より　＊2: 国勢調査（H22）より
＊3：経済センサス基礎調査　（H21.7.1）より　＊4：経済産業省　商業統計調査（H19）より

<統計データ範囲　都心臨海部>



# ３．都心臨海部の現状

## ■ 都市のユーザーからみた都心臨海部

横浜の経済・生活の中心地である都心臨海部は、横浜市民をはじめ、様々な都市のユーザーがおり、「働く」、「遊ぶ」、「学ぶ」、「暮らす」など、幅広い都市活動が行われています。

その中で、「企業」「アーティスト・クリエーター」「観光客」「生活者」といった４つの視点から現状の都心臨海部を捉えると、以下のような強み・弱みがあると整理されます。

| | 都市を選ぶ際の視点・指標<br>Global Power City Index YEARBOOK 2012<br>世界の都市総合力ランキング アクター別指標を参考に項目を作成 | 都心臨海部の強みと弱み |
|---|---|---|
| **企業の視点**<br> | 企業や商取引等の一定以上の集積、ビジネスの成長性 | ・日本の首都圏という大きなマーケットの存在。<br>・高次の業務機能は東京に一極集中。 |
| | ビジネスの容易性 | ・国家戦略特区・国際戦略総合特区・特定都市再生緊急整備地域指定による規制緩和を活用したビジネス展開が可能。 |
| | 人材プール、関連サポート産業の集積 | ・ライフイノベーションやバイオ関連の研究が進められる京浜臨海地域との近接し、周辺には、各種大学が存在。<br>・「機能集約型」（会議センター・展示ホール・ホテルなどの機能が集積した施設）のパシフィコ横浜が存在。 |
| | 家族及び従業員にとっての良好な生活環境 | ・コンパクトなエリアに多様な都市機能が集積し、職・住・遊が近接する環境。<br>・安心・安全な生活環境。（外国人向けの生活環境整備については不足） |
| | ビジネス環境、政治・経済・災害リスク | ・羽田空港から 30 分でアクセス可能。<br>・地震・水害等への防災対策の必要性。 |
| **観光客の視点**<br> | 文化的魅力や体験の機会 | ・港町の異国情緒あるまちなみや、港町を象徴するランドマークや夜景の存在。<br>・特徴的で魅力高い界隈の存在。 |
| | 安全 | ・海外諸国に比べて、治安がよい。安心・安全。 |
| | 観光スポットの充実（観光施設、文化施設等） | ・国内における横浜としての高い都市ブランド力や港の存在。<br>・観光施設の充実。（赤レンガ倉庫、歴史的建造物など）<br>・海外からの旅行者を呼び込む魅力づくりや受入環境、情報発信の不足。 |
| | 一定水準以上の宿泊施設 | ・一定の質を確保した宿泊環境の整備。<br>・宿泊室数の慢性的な飽和状況であり、最高級ホテルについては、東京に集中。 |
| | 食事の選択肢や値段等 | ・多様なニーズに対応可能な飲食店街の存在。 |
| | ショッピング環境（値段や魅力等） | ・多様な品々が集まるショッピングモールや、こだわりをもった商店街等の存在。<br>・営業時間が短い。 |
| | 観光スポットへのアクセスの良さ（所要時間等） | ・みなとみらい線やあかいくつといった、誰もが利用しやすい交通手段の存在。<br>・水際線に至る交通手段の不足。 |
| **生活者**<br>**（就業者・居住者）の視点**<br> | 就業環境（賃金、雇用機会等） | ・仕事場と住まいが近く、雇用機会も郊外部に比べ多い。 |
| | 余暇活動 | ・市民活動やスポーツ等、多様な余暇活動ができる場所が充実。 |
| | 生活環境（住環境などの日常生活のしやすさ等） | ・東京に比べて住まいは広く、生活環境が充実。<br>・待機児童対策が取り組まれている。 |
| | 購買環境価（物価、商品の得やすさ等） | ・生活環境が充実しており、ショッピングできる場所も近い。<br>・安くて優良な生活用品が売っている商店街がある。 |
| | 教育環境 | ・企業の展示館などの学ぶ場の充実。<br>・多様な課外活動への参加可能な立地。（アーティスト・クリエイターによる教育活動、環境教育等）<br>・教育施設の不足。 |
| | 安全・安心（治安・医療の充実） | ・安全・安心に暮らせる。 |
| **アーティスト・**<br>**クリエーターの視点**<br> | 文化的刺激 | ・港町独特の文化や自然環境。<br>・港を舞台とした、様々なイベントの開催、同業者・異業者との多様な交流機会。 |
| | アーティスト・クリエーターの集積 | ・多種多様の同業者がいる。 |
| | 起業のしやすさ | ・アーティスト・クリエーターへの支援プログラムやインキュベーション施設が存在。 |
| | ビジネスを継続するマーケットの存在 | ・仕事が少ない。<br>・港で開催されるイベントに様々な顧客が集まるが、十分に開拓されていない状況。 |
| | 創作環境（スタジオ、アトリエ賃料、広さなど） | ・東京の都心に比べ、賃料が安く広い製作活動場所を確保可能。 |
| | 日常生活の環境（住みやすさ） | ・東京の都心に比べ、賃料が安く広い住宅を確保可能。 |

**幅広い都市のユーザーから見て、都心臨海部は魅力ある市街地として、現在も機能していますが、**

**国際的な都市間競争の中で、将来に渡って「選ばれる都市」となるため、強みのより一層の強化と弱みの克服に向けたまちづくりを展開する必要があります。**

# ４．都心臨海部強化に向けた考え方

## ■ 都心臨海部の将来像

「世界」から「都市のユーザー」まで、幅広い視点から都心臨海部を捉える中で、これからの都心臨海部が目指すべき将来像を、以下のように定めます。

### 横浜の成長エンジン

横浜経済を担う業務・商業機能の集積地であると共に、環境未来都市、国際戦略総合特区、特定都市再生緊急整備地域、グローバル MICE 戦略都市など、複数の国家戦略プロジェクトの指定される都心臨海部は、国際水準の先進的なまちづくりに取り組み、横浜の更なる成長を牽引します。

※出典８

### 世界と繋がる国際交流の場

羽田空港からのアクセス性が高く、また、世界の港と結ばれる横浜港を有し、日本トップクラスの MICE 機能が集積する都心臨海部は、国内外の多様な人々が訪れ、働き、遊び、暮らす中で、世界との繋がりを育み、横浜の国際交流を更に推進していきます。

※出典３

**【2050 年における将来像】**　**横浜が目的地となる新しい都心**　**～みなと交流軸の形成と 5 地区連携による 都心臨海部を中心とした新しい横浜ライフの実現～**

### 横浜ブランドが集積する国内外への発信地

横浜市民の誇り・愛着として、開港以来横浜に息づいてきた文化・歴史をはじめとする質の高い「横浜ブランド」を未来に伝えると共に、美しい港に面した豊かな都市環境の中で、それをより一層高め、国内外の多方面に発信していきます。

※出典２

### クリエイティブ・イノベーションを生み・育む舞台

芸術の持つ創造性を生かしたまちづくり「創造都市」の活動の中心を担う都心臨海部は、アーティスト・クリエーターの集積地として、また、京浜臨海地域の隣接地として、新しい産業・文化を生み出し、また、それを育む中で、横浜の新しい価値を生み出していきます。

※出典９

### 夢を実現できる場所

様々な都市環境が整備されている都心臨海部は、文化・芸術・スポーツなど、夢や目標を持って活動する人々にとって、それを「育てる場所」と「かなえる場所」の両方を生み出し、横浜への愛着を持って、長く居続けられる場所としていきます。

※出典９　※出典２

**【 目 標 】**

**都市総合力ランキング※1　10 位以内　（2012 年時点では 32 位相当）**

（出典）※1：森記念財団世界都市総合力ランキング

# ４．都心臨海部強化に向けた考え方

## ■ 2050 年に向けたまちづくりのテーマと基本戦略

### 【2050 年に向けたまちづくりのテーマ】

**＜開港（1859 年）以降＞**

**横浜港における海外諸国との交流をきっかけに、文明開化が進み、時代の最先端都市として発展を遂げる**

**【当時の社会状況】**

- 横浜港の開港と、生糸を中心とした横浜貿易の発展
- 新橋・横浜間に鉄道が開通
- 京浜工業地帯の形成
- 関東大震災や、横浜大空襲の発生

**【都心臨海部での新たな取り組み】**

- 鉄道・電信・ガス燈・上水道・下水道など、最先端の技術の導入
- 外国人居留地の整備
- 横浜港の港湾機能の拡充
- 山下公園の整備　　など

**＜6 大事業の発表（1965 年）～現在＞**

**横浜ならではの先駆的なまちづくりや、港湾機能の質的転換が図られ、多様な人々が活動する現在の横浜都心部を形成**

**【当時の社会状況】**

- 高度経済成長
- 東海道新幹線の開通
- 東京のベッドタウン化
- 市街地のスプロール化
- 港湾物流の高効率化・大型化

**【都心臨海部での新たな取り組み】**

- 都心部強化事業の実施
- 都市デザイン手法の導入
- ヨコハマトリエンナーレの開催
- クリエイティブシティ・ヨコハマの実施　　など

**＜2050 年に向けたまちづくりのテーマ＞**
**－　港から「みなと交流軸」へ　－**

**開港の地、横浜の歴史と文化を生かすとともに、時代の要請に応えられるよう「進取の気概」を持って、積極的に新しいものを取り入れ、横浜らしいまちづくりを展開していく。**

**そのため、港とともに発展した従来の都心を拡大し、各地区の特徴や個性を生かしたまちづくりを進めるとともに、都心に相応しい施設や機能を集積し、多様な人々の活動・交流・ネットワーキングが創出される「みなと交流軸」を形成し、次の時代に向けて発展する横浜の新しいイノベーションを生みだしていく。**

### 【2050 年に向けた基本戦略：みなと交流軸の形成と 5 地区連携によるまちづくり】

都心臨海部に幅広い都市のユーザーを呼び込み、新しい都市活動や交流、ネットワーキングの促進を図るため、**「みなと交流軸」**や地区の結節点において**「国際ビジネス・MICE」**、**「観光・エンターテイメント」**、**「文化芸術・創造都市」**の３つの機能の重点化・連携強化を図り、横浜ならではの都心機能を高めていきます。

これらをより効果的に展開するため、これまで取り組まれてきた**「都市空間の魅力向上」**や**「回遊性の向上」**、**「環境づくりの充実」**等の更なる推進を図り、人々に選ばれる都心づくりを進めます。

**＜戦略的なまちづくりのイメージ＞**

**国際ビジネス・MICE**
【主なﾀｰｹﾞｯﾄ：企業、観光客】

- 外国人が嗜好する職住遊近接型のビジネス・生活環境整備の推進による国際企業の立地促進
- 国際会議等の開催による「横浜ブランド」の国内外への発信力強化
- 展示会や会議開催件数の増加によるビジネス機会の創出

相乗効果

**観光・エンターテイメント**
【主なﾀｰｹﾞｯﾄ：観光客、ｱｰﾃｨｽﾄ・ｸﾘｴｲﾀｰ】

- 国内需要だけでなく、インバウンドの拡充に向けた外国人観光客の更なる呼び込み
- 「横浜」を感じつつ時間をかけて楽しめる、個性的で質の高い界隈・施設整備を面的に展開し、来街者の増加、滞在時間の延長等による地域経済の活性化を促進

相乗効果

**文化芸術・創造都市**
【主なﾀｰｹﾞｯﾄ：ｱｰﾃｨｽﾄ・ｸﾘｴｲﾀｰ、生活者】

- 文化芸術の国内外への発信
- 自立し・成長するビジネスとしての、創造的活動を促進
- プロのアーティストの質の高い公演などを身近に触れることで、様々な文化芸術活動を活性化

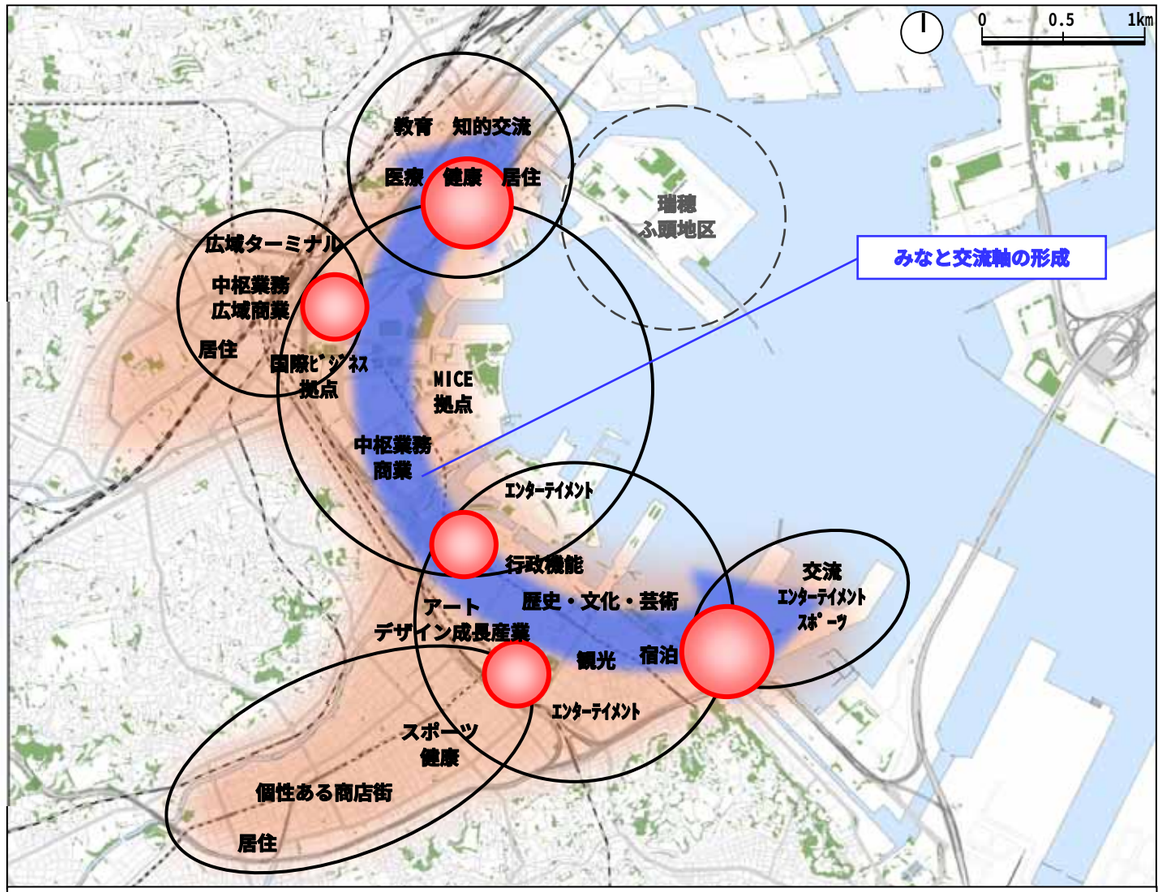
**都 市 空 間 の 魅 力 向 上**

**回 遊 性 の 向 上**

**環 境 づ く り の 充 実**

**幅広い都市のユーザー【企業、観光客、生活者（就業者・居住者）、ｸﾘｴｲﾀｰ・ｱｰﾃｨｽﾄ】に選ばれ、『横浜が目的地』となる新しい都心を形成**

**＜都心臨海部の機能配置イメージ＞**




凡例（概ねの位置を示す）
：みなと交流軸　：都心エリア　：結節点

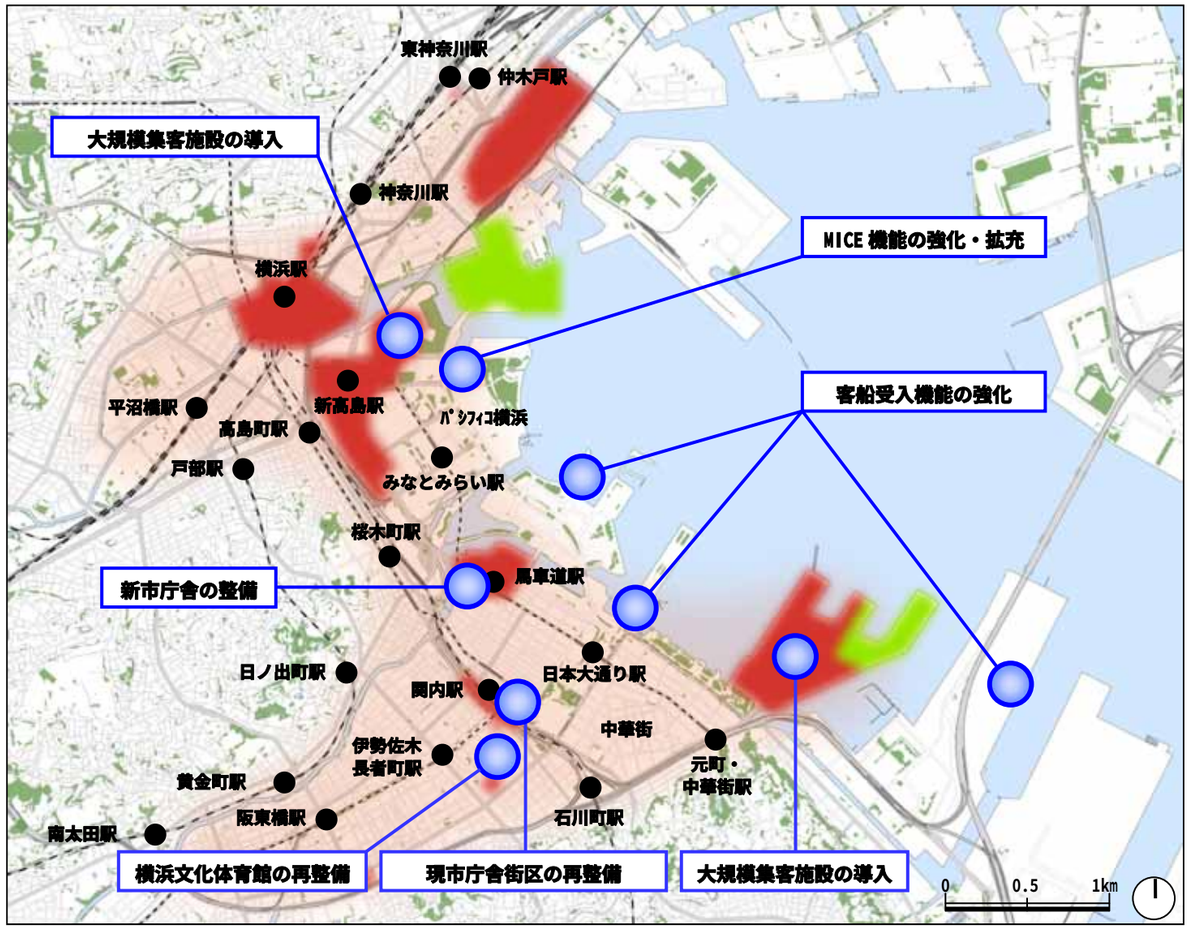
# ４－１　「都心臨海部の魅力増幅」

## ■ まちづくりを牽引する新たな魅力づくり

「みなと交流軸」や地区間の結節点を中心に、新しい都市活動や交流、ネットワーキングを促進する機能の充実を図ります。戦略的なまちづくりを実現するための新たな「核」として、大規模集客施設（文化芸術拠点施設、大規模な商業施設、スポーツ施設等）をはじめ、以下のプロジェクトを展開し、まちづくりの更なる相乗効果を生み出していきます。

新たな施設整備にあたっては、官民パートナーシップの活用や IR（統合型リゾート）の導入などについて検討します。併せて、海洋に関する企業や大学等での先進的分野の取り組みを、横浜の強みとして活かしていきます。

### ＜将来のプロジェクト配置＞




凡例

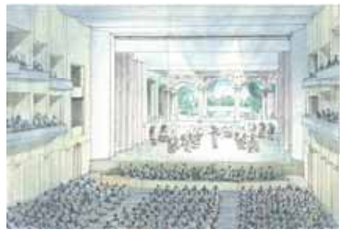
【プロジェクト目標年次】　【まちづくりを牽引する新たな魅力づくり】

：2025 年　　：核となる施設

：2050 年

### ＜大規模集客施設のイメージ＞

【文化芸術系】



【商業系】

【スポーツ系】

### ＜IR のイメージ＞

【会議施設】

【宿泊施設】

【カジノ施設】

※　IR(統合型リゾート)とは、会議場施設及び展示施設、宿泊施設、カジノ施設、大規模集客施設、その他の観光振興に寄与すると認められる施設が一体となっている施設を指します。

### ＜2025 年までを目標とした主なプロジェクト一覧＞

| 地区 | プロジェクト |
|---|---|
| 横浜駅周辺地区 | ○横浜駅・駅周辺における民間開発の促進<br>・横浜駅西口駅ビル計画　・幸栄地区　・五番街地区　・鶴屋町開発<br>・ステーションオアシス　・出島地区 |
| みなとみらい 21 地区 | ○20 街区の開発（MICE 機能の強化・拡充）　○新港ふ頭の客船受入機能の強化<br>○60・61 街区をはじめとする街区開発（大規模集客施設） |
| 関内・関外地区 | ○北仲通北地区・南地区（新市庁舎）　○現市庁舎街区の再整備<br>○横浜文化体育館の再整備　○関内駅の拠点性強化<br>○南区総合庁舎の整備　○公有地の再編・活用<br>○アーティスト・クリエーター等のスタジオ開設支援 |
| 山下ふ頭周辺地区 | ○第一期の開発（大規模集客施設） |
| 東神奈川臨海部<br>周辺地区 | ○東神奈川駅前再開発事業　○水再生センターの上部利活用<br>○東高島貨物駅北地区の面的整備 |

### ＜2050 年までを目標とした主なプロジェクト一覧＞

| 地区 | プロジェクト |
|---|---|
| 山下ふ頭周辺地区 | ○ふ頭の全体の開発 |
| 東神奈川臨海部<br>周辺地区 | ○港湾緑地の埋立<br>○中央卸売市場周辺地区の高度利活用 |

| | |
|---|---|
| 【参考】<br>瑞穂ふ頭地区 | ○瑞穂ふ頭の返還・まちづくりの実施 |

# ４－１　「都心臨海部の魅力増幅」

## ■ 都市活動の担い手が集まる場づくり

都心臨海部の持続的な発展を目指していく上で、都心の活力に繋がる「人」の集積を図ることが重要となります。「多様な人々が訪れ、働く」従来の都心の役割に加え「都心ならではの暮らし」を提供することは、職住遊近接による就業地・商業地としての価値向上や、都心の文化・コミュニティを継承していく上で重要な役割を果たします。

そのため、既存のストックをいかすと共に、都心臨海部の個性をいかし、新しい時代のワークスタイル・ライフスタイルや、多文化性に対応した選択性の高い生活環境整備を進め、都心臨海部で働く就業者をはじめ、様々な都市活動の担い手に選ばれ、平休日問わず人々で賑わう新しい都心づくりを展開します。

また、都心臨海部で暮らす幅広い生活者やコミュニティが利用する都市活動の場として、まちづくりの中で、パブリックスペース（公共空間等）や都心臨海部の魅力である水際線等の充実とその利活用、街なかでの多様なイベント開催などを積極的に展開することで、様々な交流を誘発し、人々で賑わい、活気溢れる都心を創出していきます。

【都心臨海部ならではの都市活動のイメージ】

多様な人々が集まる
マーケットでの交流 ※出典１０

アーティスト・クリエイターの
イベント※出典１０

スポーツイベント

### 【都心臨海部の特性・魅力をいかした選択性の高い生活環境整備】

**＜外国人をはじめ多様な担い手のための住環境整備＞**

- 羽田空港との高いアクセス性や横浜港を望む良好な眺望をいかし、高規格住宅やサービスアパートメントの整備を誘導することで、国際企業が嗜好する職住近接型の質の高い環境整備を実現します。
- グローバル化への対応のため、周辺市街地と連携しながら、まちづくりの中で外国語対応の生活関連施設やインターナショナルスクール等の整備を進め、外国人が安心して暮らせる環境を創出します。

海辺をのぞむ高規格住宅
※出典１１

**＜多文化に対応した生活環境整備＞**

- 業務・商業機能等とのバランスに配慮しながら、住宅ストックの有効活用に取り組み、質の高いリノベーションやコンバージョン等を誘導し、様々な用途がミックスした都心ならではの居住スタイルを創出します。
- アーティスト・クリエーターなどが嗜好する暮らしながら働くといった新しいワークスタイル・ライフスタイルに対応した環境整備を進め、都市の新しい活力を育成していきます。

**〔海外の事例〕水際線をいかした賑わい形成**

- 海外では、河川・運河等を利用し、開放的で賑わいある通りや、水辺を眺める低・中層の住宅など、水辺を感じ・楽しみ・親しむヒューマンスケールの環境づくりが進められ、水際線の賑わいが形成されています。

水際線をいかしたまちづくり【ﾊﾝﾌﾞﾙｸﾞ】※出典１２

## ■ 横浜のブランド力を高め・発信する都市デザインや街並み・景観づくり

都心部を中心に、1960 年代後半から長年取り組まれてきた、横浜の都市デザイン活動によるまちづくりや、港を意識した街並み・景観づくりを更に展開し、個性豊かな建物や景観の魅力を発揮することで、横浜ブランドの強化や国内外への情報発信力強化に取り組みます。

特に、みなと交流軸におけるまちづくりでは、港からの眺望や、山下ふ頭周辺地区、東神奈川臨海部周辺地区からの眺望を意識し、後背の斜面緑地や周辺建物のスカイラインと調和した水際線の良好な景観を創造し、世界有数の「美港」として相応しい景観形成を進めます。また、まちづくりの進展と併せて、国際都市横浜を象徴する新たなランドマークの創出のため、国際プロポーザルなど、質の高いデザインを取り入れた施設整備に取り組みます。

港からの美しい眺望 ※出典８

公募型プロポーザル方式により
再整備された象の鼻パーク ※出典８

### 【成熟した高質な都市空間の創造と活用】

- 地区内の開港以来の歴史を語り継ぐ歴史的建造物（震災復興建築物、戦災復興建築など）等について、リノベーションによる活用を図ります。
- リノベーションした建物は、創造都市の活動拠点（創造界隈拠点）として、また、飲食店など都市活力を生み出す施設として活用します。
- 横浜三塔のように、歴史的建造物に物語性をもたせ、都市のブランドづくりに貢献します。
- 夜景演出により昼間とは異なる街の美しさ、楽しさを創出します。
- 地区の特性を踏まえ、横浜ならではの景観でこそ成立する、高質で魅力的な屋外広告物を誘導します。

**＜歴史をいかしたまちづくり＞**

旧富士銀行横浜支店

旧第一銀行横浜支店

**＜都市景観づくり＞**

スマート
イルミネーション

デザインされた
ストリートファニチャー

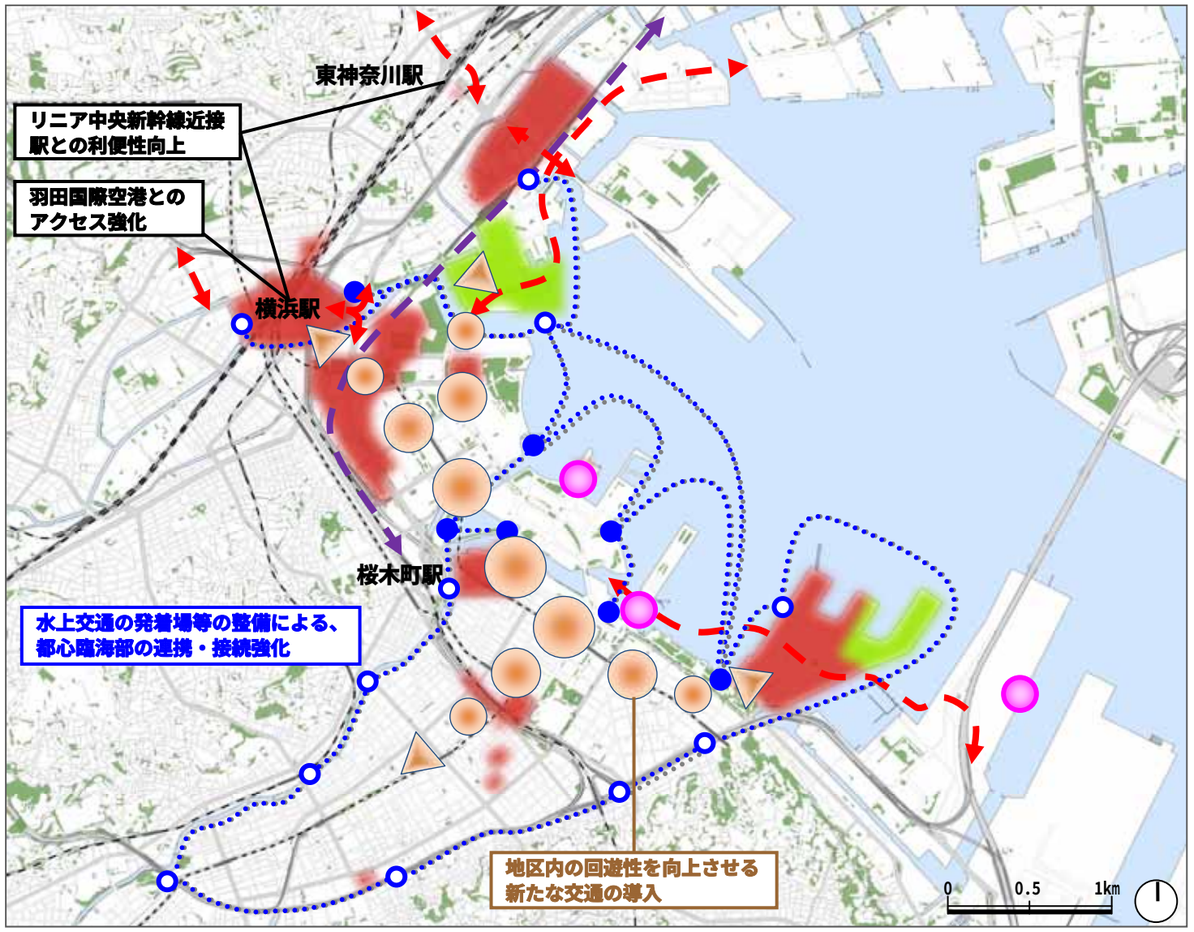
## ４－２　「機能連携を強化する回遊性づくり」

### ■ 回遊性を高めるネットワークの強化（都心臨海部全体）

都心臨海部では、公共交通や歩行者を中心とした交通体系を強化・拡充し、まちを眺めながらの移動自体が楽しく感じられるようなまちづくり、ネットワークづくりを展開し、地域全体の回遊性を高めていきます。

その中で、今後の都心臨海部の開発状況や既存の交通インフラ（鉄道・地下鉄・路線バス・水上交通等）の利用状況等を踏まえながら、まちの賑わいづくりに寄与する新たな交通を導入します。

**＜将来の地区内交通ネットワーク＞**




凡例

【プロジェクト目標年次】【都心臨海部全体の回遊性を高めるネットワークの強化・拡充】

- 2025 年
- 2050 年
- ：鉄道ｲﾝﾌﾗ強化
- ：道路ｲﾝﾌﾗ強化
- ：客船寄港の促進
- ：新たな交通
- ：水上交通
- ：水上交通の発着場（既設・新設）

**＜都心臨海部の回遊性を高める新たな交通の導入＞**

- 水際線や内陸地について、環境配慮型の新たな交通を含めた交通インフラの導入を進め、訪れる観光客をはじめ、就業者や居住者の利便性・回遊性を高めます。

新たな交通の導入イメージ（左から LRT、連節バス）　※出典３

**＜道路インフラの強化・拡充＞**

- まちづくりや港湾の整備状況を踏まえながら、臨港幹線道路や横浜上麻生線、東神奈川線の整備を進めます。

臨港幹線道路

**＜鉄道インフラの強化・拡充＞**

- 東高島貨物駅周辺の再整備を契機に、東海道貨物支線について、旅客線化に向けた取り組みを進めます。

**＜水上交通の強化・拡充＞**

- 水上交通の発着場等の整備を進め、水上交通ネットワークの強化・拡充を図ります。

横浜駅東口の
シーバス乗り場

横浜駅東口からベイエリアへと
向かうシーバス

黄金町の高架下活用と併せて
整備された船着場

**＜多彩な交通モードの円滑な乗り換えによる回遊性の高いネットワーク形成＞**

- 交通結節点において様々な交通モードの円滑な乗り換えを実現し、公共交通利用者の利便性を高めていきます。

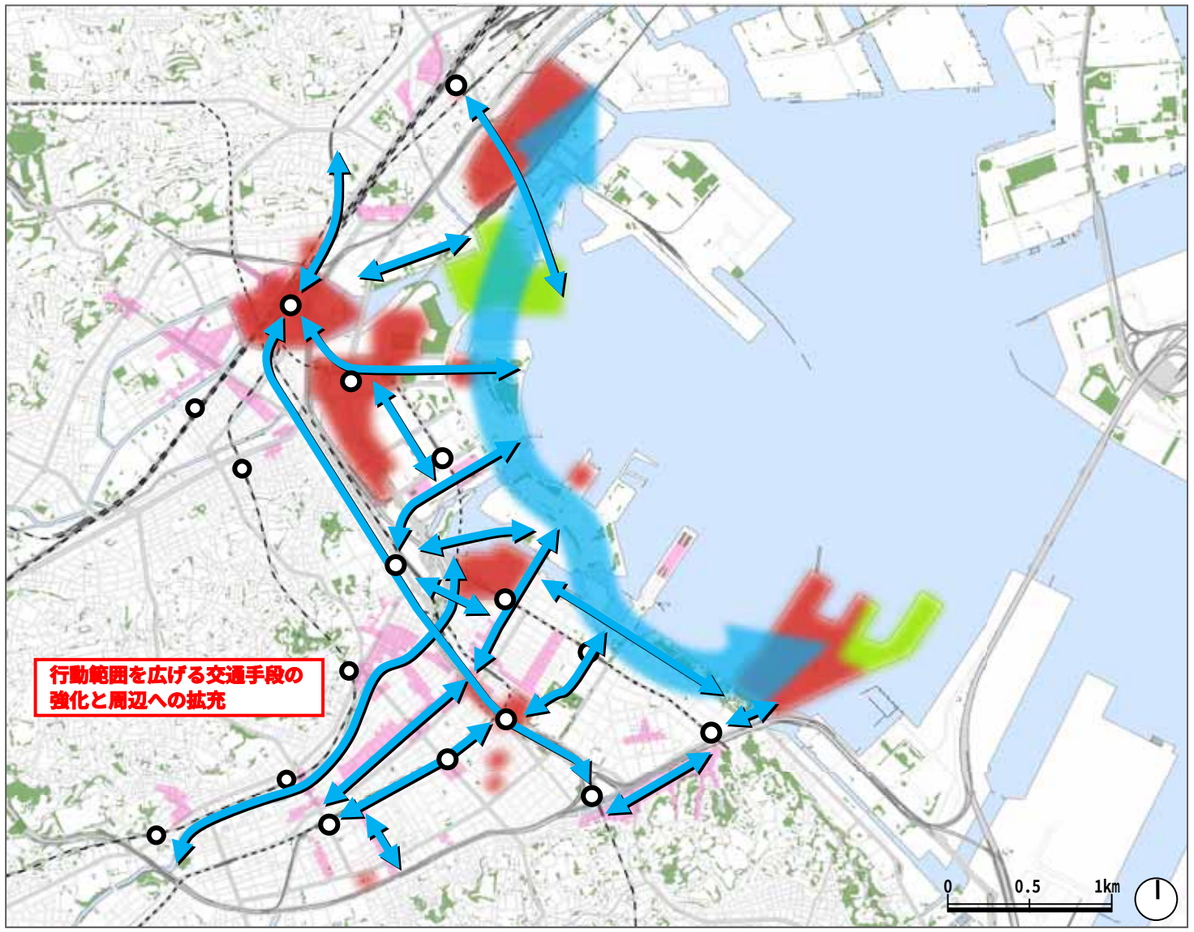
## ４－２　「機能連携を強化する回遊性づくり」

### ■ 回遊性を高めるネットワークの強化（地区レベル）

個性的で魅力ある界隈がコンパクトに集約されている都心臨海部においては、それらの魅力を最大限に享受できるよう、子どもからお年寄りまで、誰もが安心して歩いて楽しめるまちづくり・ネットワークづくりを展開し、地域全体の活性化を図っていきます。その中で、水辺へと向かう環境豊かな歩行者動線の整備を進め、横浜らしさを象徴する水際線の空間へと人々を呼び込んでいきます。

併せて、駅をはじめとする交通結節点間や拠点的な施設を結ぶ環境配慮型のモビリティの導入を進め、行動範囲を広げる交通手段として、地区内移動の利便性を高めていきます。

**＜将来の歩行者ネットワーク＞**




凡例

【プロジェクト目標年次】
- ：2025 年
- ：2050 年

【地区レベルの回遊性を高めるネットワークの強化・拡充】
- ：鉄道駅
- ：商店街
- ：海沿いの歩行者軸
- ：地区内を回遊する歩行者軸

**【歩行者ネットワークの強化・拡充】**

- 人々を、横浜らしさを象徴する水際線へと呼び込むため、海へと続く歩行者軸や都心臨海部の各地区の連携強化に向け、東横線跡地事業の推進等、魅力ある歩行者ネットワークの強化・拡充を進めます。
- 歩行者ネットワークの強化・拡充と併せて、沿道の賑わいある街並みの形成や、街歩きを演出する休憩スポット等の充実、緑豊かな植栽等の環境整備を併せて展開し、歩いて楽しいまちを形成します。
- 「山下ふ頭周辺地区」や「東神奈川臨海部周辺地区」については、多くの人々が地区間・地区内を円滑に移動できるよう歩行者ネットワークの強化・拡充を進めるとともに、人々を水際線に導く新たな歩行者軸の形成を進めていきます。

海沿いの開放的な歩行者空間 ※出典８

歩いて楽しい賑わいある街並み

地区の骨格となる緑の軸

**【行動範囲を広げる交通手段の強化・拡充】**

- 特色ある都心臨海部の地区間・地区内を快適に回遊し、目的地へより円滑に移動できるよう、現在進められているコミュニティサイクル等の取り組みを強化・拡充します。
- 他モビリティと連携できるよう、円滑な乗換えシステムの構築を進めていきます。
- 環境配慮型のパーソナルモビリティなどの導入を進めていきます。

コミュニティサイクル

超小型モビリティ

セグウェイ ※出典１３

## ４－２　「機能連携を強化する回遊性づくり」

### 【都心臨海部の回遊性づくりのイメージ】

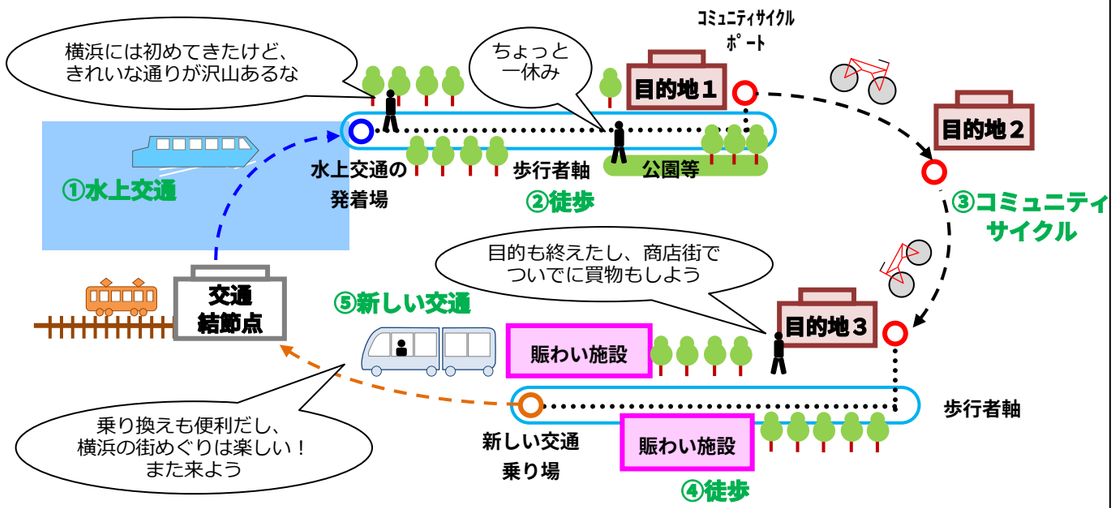
街なかに個性豊かな施設・界隈が多数存在する都心臨海部では、様々な目的に応じて円滑に移動できるよう、幅広い交通手段による回遊性づくりを進めると共に、それぞれが繋がり合い、誰にとってもわかりやすく利用しやすいネットワークづくりを展開します。

ネットワークづくりにあたっては、回遊する人々の新しい行動を誘発するような仕掛けづくりを行い、まちづくりとの相乗効果を生み出していきます。

①発着場から水上交通に乗車

②水上交通を降り、そこから
海沿いの開放的な道を歩く ※出典８

③目的地にあるポートで
コミュニティサイクルをレンタル



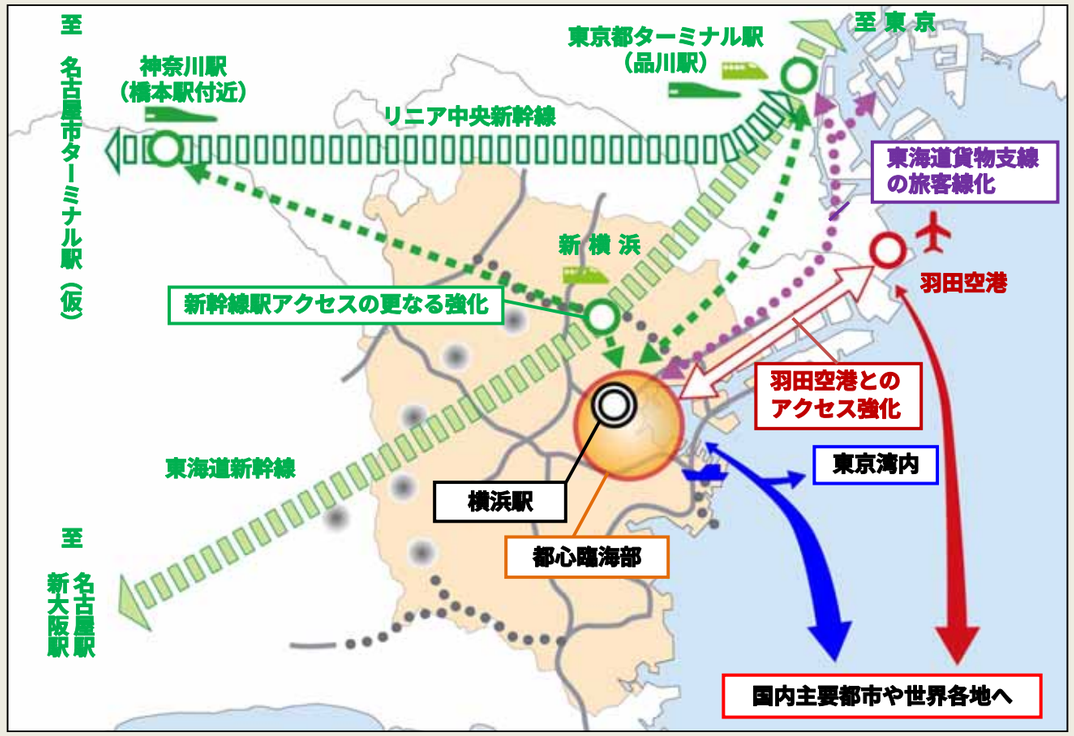
⑤新しい交通などで広い範囲を回遊する

④新しい交通の乗り場へ向かう途中に
賑わいのある商店街を歩く

都心臨海部の回遊イメージ

### 〔コラム〕広域交通インフラの強化・拡充

都心臨海部における国際競争力強化や、東京をはじめとする周辺他都市との連携強化に向け、横浜市全域や周辺自治体と連携することで、空港やリニア中央新幹線駅に接続する路線をはじめとする、広域交通インフラの中・長期的な強化・拡充に取り組み、人の移動の円滑化を促進していきます。




凡例

＜羽田空港とのｱｸｾｽ強化＞
⟺：羽田空港とのｱｸｾｽ強化

＜鉄道ｲﾝﾌﾗの強化・拡充＞
◀▪▪▪▶：ﾘﾆｱ中央新幹線駅とのｱｸｾｽ強化
◀•••▶：東海道貨物支線の旅客線化

＜道路ｲﾝﾌﾗの強化・拡充＞
▪ ▪ ▪：計画中
• • • •：事業中
▬：併用中

**＜鉄道インフラの強化・拡充＞**

**【羽田空港アクセスの更なる強化に向けた取り組み例】**

- 羽田空港の直通・速達型列車の運行本数の増加や、早朝・深夜便への対応などの利便性向上
- 利用者の利便性・快適性に配慮し、鉄道によるアクセスの質の向上

**【新幹線駅アクセスの更なる強化に向けた取り組み例】**

- リニア中央新幹線の開通を見据えた新幹線駅へのアクセスの更なる向上
- 市営地下鉄の急行運転による新横浜駅への時間短縮化や、横浜線の根岸線乗入本数の増加等による横浜～新横浜間の利便性の向上

**＜道路インフラの強化・拡充＞**

**【都心臨海部へのアクセス強化に向けた取り組み例】**

- 環状道路など、広域的な道路交通網の強化による都心部への広域的なアクセス強化

## ４－３　「世界に誇れる次世代の環境づくり」

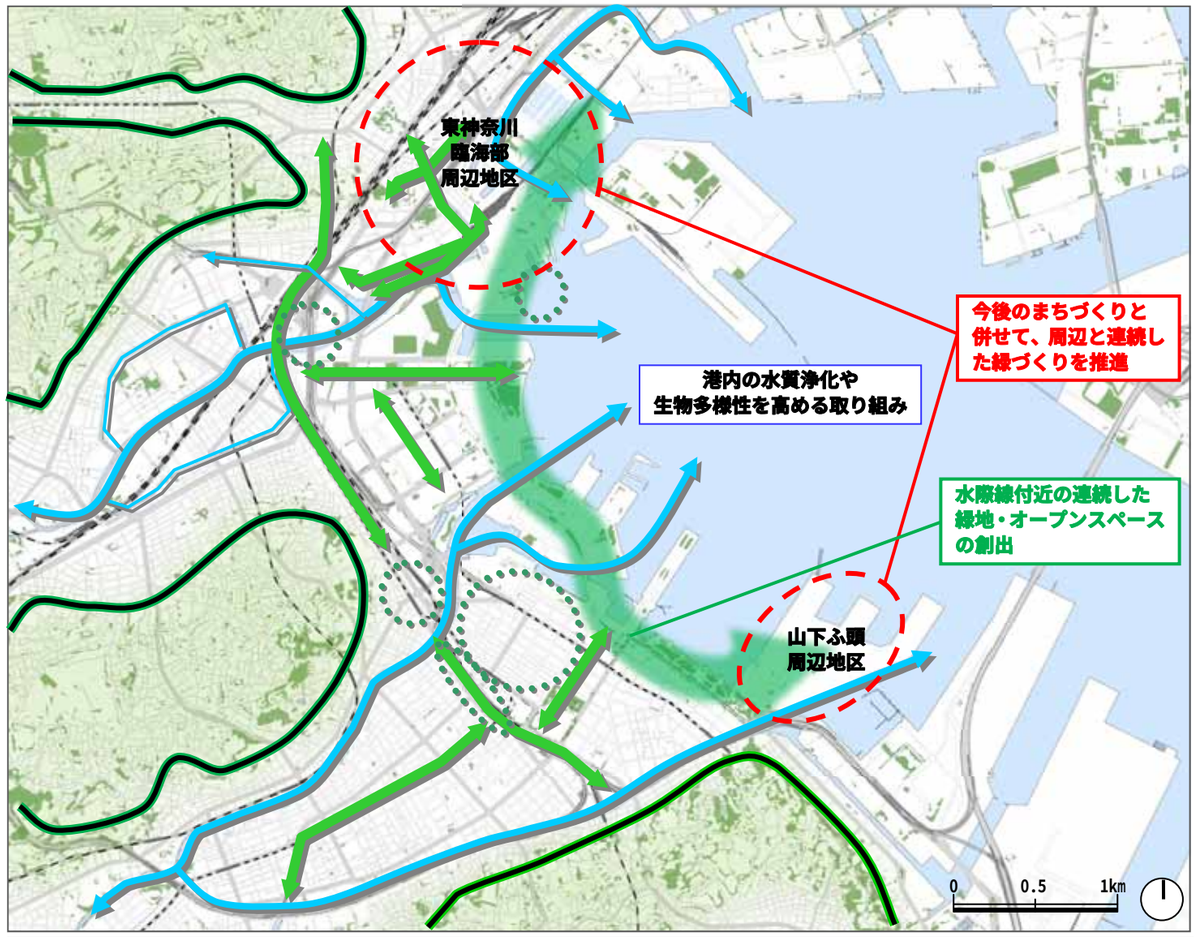
### ■ 海を意識した水・緑・風の環境づくり

風格ある横浜の都心臨海部を創出するため、また、横浜市民が誇りに思い、次世代に残し続け・育む環境インフラとして、都市と水際線が繋がる都心臨海部ならではの貴重な都市環境をいかした、豊かな水と緑づくりに取り組みます。

また、「山下ふ頭周辺地区」や「東神奈川臨海部周辺地区」については、今後の計画的なまちづくりと併せ、周辺と連続した水際の緑づくりを展開していきます。

併せて、河川が入り組む特徴をいかした風の道の形成を図り、市街地に海風を導いていきます。

**＜都市環境づくりに向けた取り組み＞**




凡例

【海を意識した水・緑・風の環境づくり】

- ：水と緑の大景観づくり
- ：まちづくりに併せて緑づくりを実施
- ：積極的な緑づくり
- ：斜面緑地
- ：緑の軸線
- ：風の道・親水空間整備

**【横浜の風格を高める水と緑づくり（公民連携）】**

- 丸みのある湾の形状をいかし、横浜港から市街地を望む視線を意識した、水際線付近の連続した緑地や、後背に重なる斜面緑地など、横浜ならではの地形をいかした風景を大切にし、成熟した横浜の魅力を伝える水と緑づくりを展開します。
- 街なかでは、魅力ある水際線へと人々をいざなう緑の軸線を強化・拡充すると共に、人々が日々の暮らしの中で快適で心地の良い緑を実感できるよう、滞留空間や歩行者ネットワークに沿った緑化を推進し、四季折々の変化を感じられるような、うるおいと安らぎのある緑づくりを進めます。
- 基盤の更新や民間の開発に併せて、都心臨海部の特色豊かな地域を繋ぐ、水と緑の骨格軸を創出します。
- 港内の水質浄化や生物多様性を高める取り組みを推進すると共に、親水空間の整備等に取り組み、人々の暮らしに息づき、親しまれる水辺空間を創出します。

水際線へといざなう、風格ある緑の軸線

陸側から望む水と緑の風景

四季を感じる多様な花々等による植栽

**【風の道をいかした環境づくり】**

- 海風を市街地へと導く風の道の確保し、河川沿いの積極的な緑化により、市街地のヒートアイランド現象等の改善に取り組みます。

街なかに海風を導く風の道のイメージ

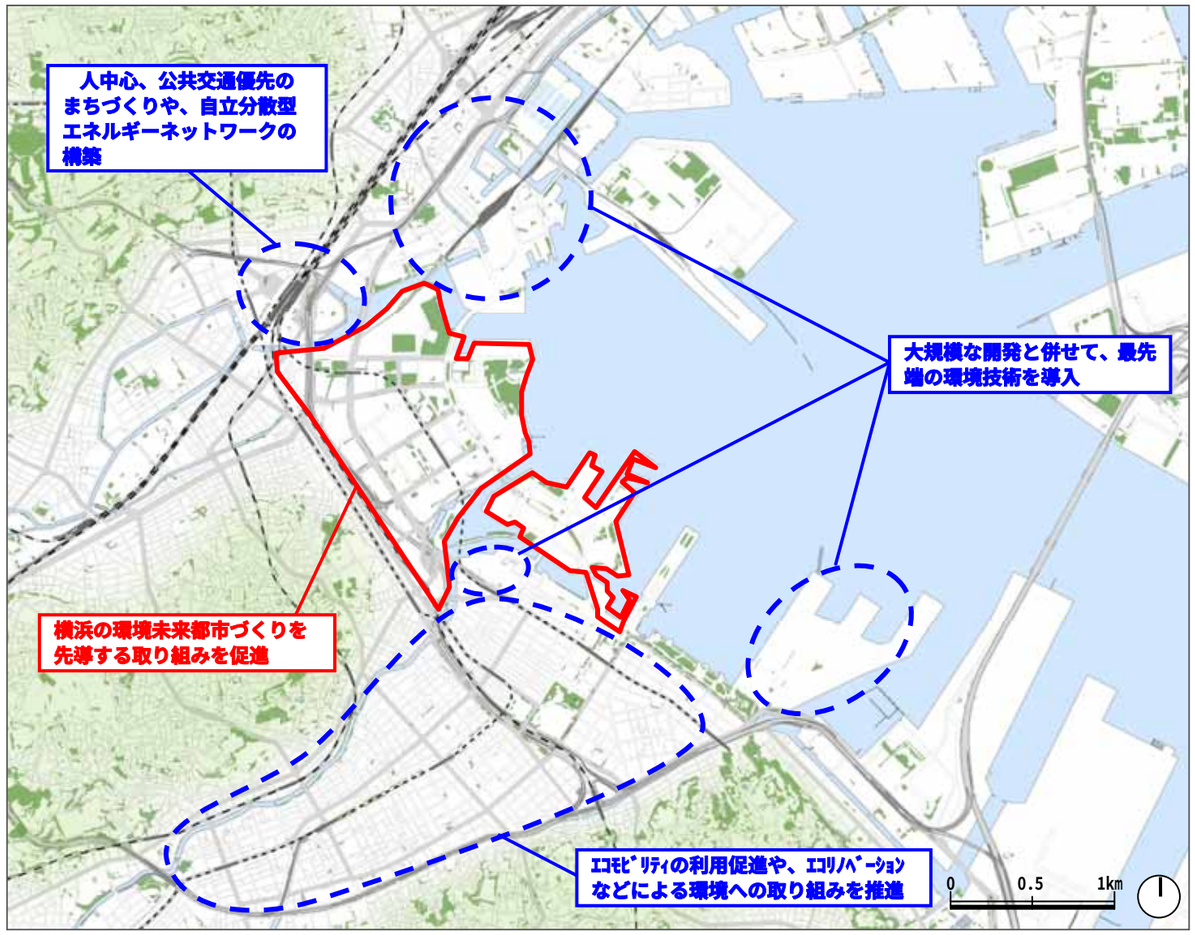
# ４－３　「世界に誇れる次世代の環境づくり」

## ■ 最先端環境技術等の導入による環境負荷低減

地球規模で進行する気候変動への対応のひとつとして、低炭素化・省エネルギー化に配慮した計画的なまちづくりや、先進的な環境技術の導入に取り組み、世界の環境都市づくりのモデルケースとなる、次世代の環境づくりに取り組んでいきます。

また、ハード面の整備と併せて、ソフト面においても、都市ブランド力の高い都心臨海部の特性を活かし、環境意識の向上に向けた、環境指標の積極的な見える化や、環境先端技術を街なかに展開する企業と連携した環境イベントの開催など、横浜市民の環境意識を高める取り組みを促進します。

### ＜環境負荷低減に向けた取り組み＞




凡例

【最先端環境技術等の導入による環境負荷低減】

：現在実施中　　：まちづくりに併せて環境施策を実施

**【都心臨海部全体における低炭素化・省エネルギー化に向けた取り組み】**

- エネルギーの高効率利用や、「強靭」かつ「しなやか（迅速な回復力）」なエネルギーシステムをもつまちづくりを進めます。
- 京浜臨海部との近接性を活かし、未利用エネルギーの活用を図ります。

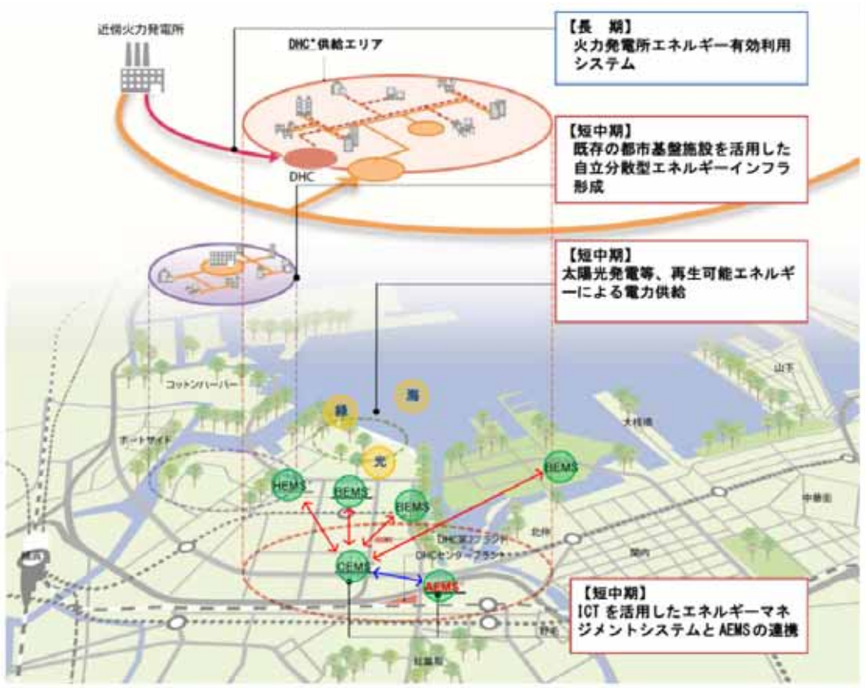
EX…
- ・HEMS、BEMS、CEMS の導入による スマートグリッドの確立
- ・自立分散型ｴﾈﾙｷﾞｰのﾈｯﾄﾜｰｸの形成
- ・最新のｸﾞﾘｰﾝﾋﾞﾙﾃﾞｨﾝｸﾞの導入
- ・公共施設の上部空間を活用した太陽光発電
- ・下水処理水の活用
- ・EV、燃料電池車の導入推進
- ・未利用ｴﾈﾙｷﾞｰの活用（京浜臨海地域の余剰ｴﾈﾙｷﾞｰ、火力発電所の排熱、海水、未処理下水等）

都心に近接した風力発電※出典２

大規模な太陽光発電のイメージ

**【地区毎において特に展開する取り組み】**

- 「みなとみらい 21 地区」では、横浜の環境未来都市づくりを先導する取り組みを促進します（みなとみらい 2050 プロジェクト）。
- 関内・関外地区などでは、環境配慮型のエコモビリティの利用促進や、既存建物のエコリノベーションなど、建物更新等の機会を積極的に捉えた環境への取り組みを推進し、市民の環境意識を高めていきます。




みなとみらい 21 地区における取り組み案イメージ（横浜市みなとみらい 21 地区スマートなまちづくり審議会資料より）

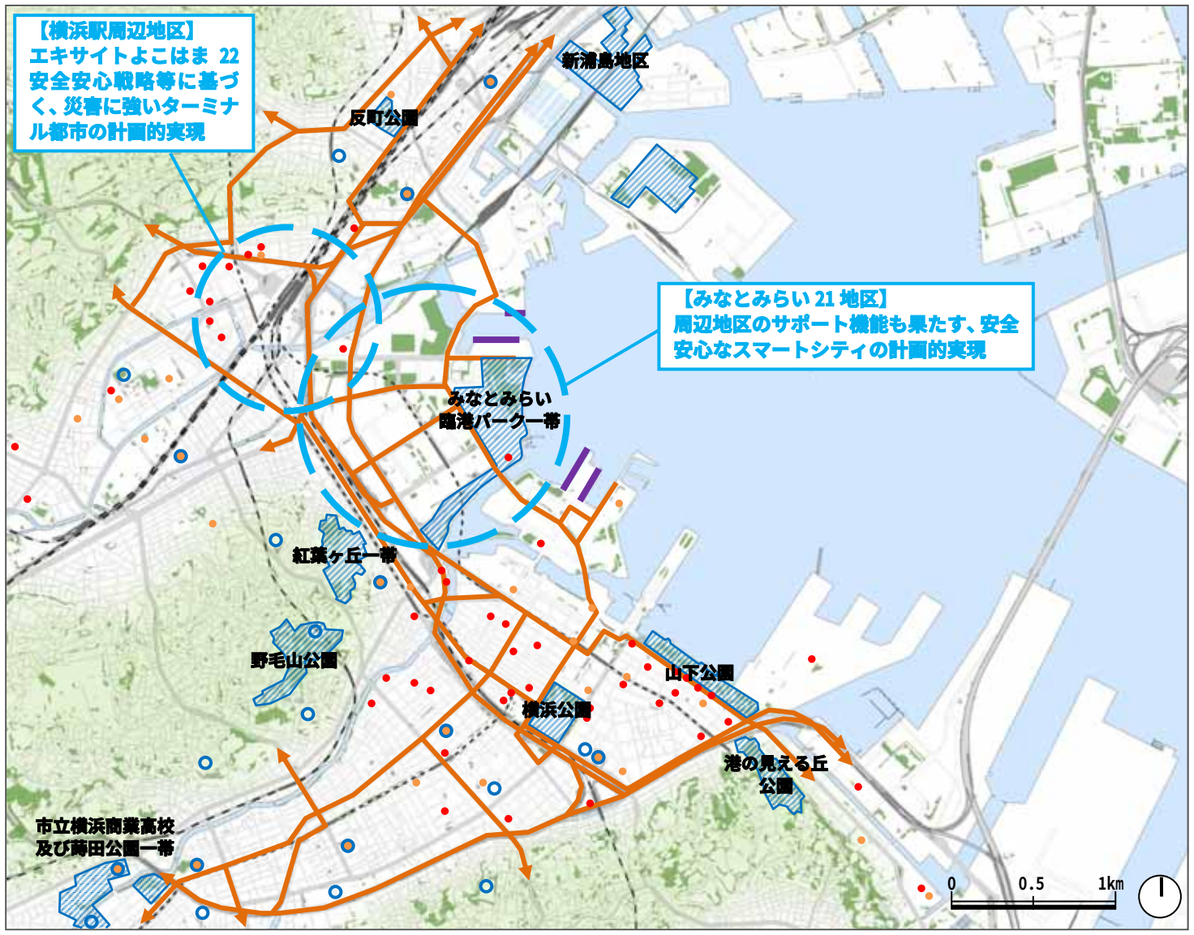
## ４－４　「都心の活動を支える安全・安心づくり」

### ■ 横浜の中心地としての防災・減災の取り組みの多重化

大規模なターミナル駅や横浜経済を担う企業、行政機能等が集積する横浜の中心として、外国人をはじめとする多くの人々、企業に選ばれるため、また、災害発生時の市全体の迅速な復興を牽引するため、横浜市防災計画に基づく防災都市づくりの推進を図り、地震や津波等に対する更なる防災対応力の向上に取り組みます。また、企業等の事業継続を支えるライフラインの耐震強化等とともに、帰宅困難者対策等の推進を図ります。

特に、横浜駅周辺とみなとみらい 21 地区周辺については、地震・津波・台風や局地的大雨などの、災害に対して強靭なまちづくりを官民連携のもと強力に推し進めます。

**＜防災・減災に向けた取り組み＞**




凡例

【横浜の中心地としての防災・減災の取り組みの多重化】

- ：広域避難場所（都心臨海部及びその周辺）
- ：地域防災拠点（都心臨海部及びその周辺）
- ：津波避難施設（公共）
- ：津波避難施設（民間）
- ：緊急輸送路
- ：耐震強化岸壁

**【都心臨海部全体のまちづくりと併せた防災機能強化】**

**＜核となる施設整備と併せた、防災拠点の形成＞**

- 多くの利用者が想定され、また、誰にとっても避難時のわかりやすい目印となりやすい、核となる施設の整備と併せて、滞留者・帰宅困難者等を受け入れる避難スペースの確保や、災害弱者となる外国人等を対象とした情報提供、防災備蓄品の確保等に取り組みます。

**＜地域防災力の向上＞**

- 海岸保全施設等の防護施設の整備・改修を行うことで、津波や高潮からの被害を防ぎます。
- 丘陵地に囲まれる都心臨海部の特性を踏まえ、津波の発生に対して、民間事業者との連携を図りながら、津波避難施設等や避難経路を適切に確保していきます。
- 緊急物資の受入を行う海上輸送の拠点として、耐震強化岸壁を適切に配置します。
- 緊急物資等の受入拠点からの緊急輸送路の確保のため、主要な輸送路沿道の建築物の耐震化などを促進し、発災時にも機能する道路空間の確保を進めます。
- 事業継続のため、都市機能を支えるライフラインの耐震強化を図ります
- 都心臨海部におけるエネルギーネットワークの多重化の取り組みを推進する中で、地震等災害時における非常用電源の確保を推進します。

**＜防災意識の啓蒙＞**

- 大地震等による大規模災害発生による混乱を最小限に抑えるため、各地区で行われているエリアマネジメント活動と併せて、発災時を想定した防災訓練などを行います。

**【各地区のまちづくりと併せた防災機能強化】**

**＜横浜駅周辺の、災害に強い都市づくりの計画的実現＞**

- 来街人口の多い横浜駅周辺においては、エキサイトよこはま２２や都市再生安全確保計画等に基づき、ゆとりある歩行者空間の創出、デッキレベルの歩行者ネットワーク構築とともに、地盤の嵩上げや下水道・河川事業による浸水対策、地下街等における避難確保・浸水防止に向けた対策、災害時の帰宅困難者一時滞在施設・津波避難施設・避難経路などの整備を計画的に進め、誰もが安全・安心を実感できる国際交流都市を実現します。
- 発災後の運営体制などのソフト面はもとより、津波の届かない位置への建物の電源設備・防災センター等の配置誘導等、災害時の活動継続に関わるハード面の対策についても、官民連携のもと、実現を図ります。

**＜みなとみらい 21 地区の、更なる災害時対応機能強化＞**

- 大規模災害の発生時でも、津波や高潮からの被害が小さく、液状化の危険度が低いと想定されるみなとみらい 21 地区は、自地区内のみならず周辺地区をサポートすることも可能な地区として、共同溝や地域冷暖房などの既存施設を最大限活用し、新しいエネルギー供給に向けた環境整備に取り組みます。

## ４－５　「市民参加による持続的な価値とコミュニティづくり」

### ■ 市民参加によるエリアマネジメントの展開と都心臨海部ならではのコミュニティづくり

都心臨海部で展開する様々な活動をより効果的に発展させていくため、これまでのエリアマネジメント活動の強化・拡充に加え、都心臨海部の活動に参画しやすい仕組み・体制づくりに取り組むことで、活発な都市活動を展開します。また、活動を通じて、まちへの誇りや愛着といった持続的な価値を創出し、人々に愛され・親しまれる都心臨海部の形成を図ります。

外国人やアーティスト・クリエイターをはじめとする多様な人々が、地域の人々と繋がり安心して楽しんで暮らせるよう、仕事や趣味、遊び、生活などを通じた、様々なコミュニティづくりを展開すると共に、災害発生時などにおいて重要となる共助の関係づくりを進めます。

また、都心臨海部ならではの魅力的なライフスタイルとして、水辺での活動をきっかけとしたコミュニティづくりを図ります。

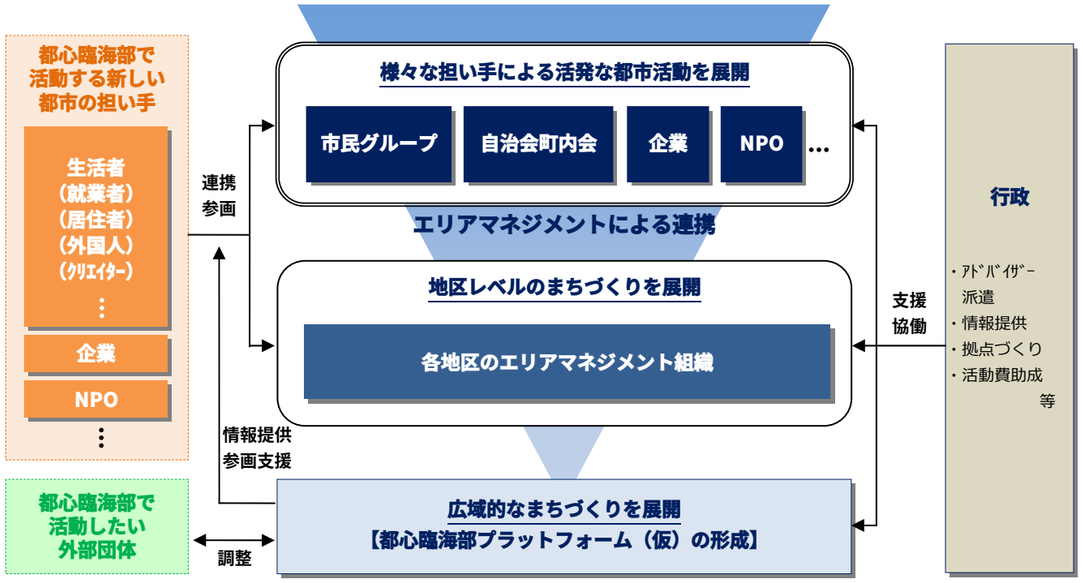
**【エリアマネジメントを通じた公共的空間の魅力づくり】**

- パブリックスペース（公共空間等）における維持・管理や、それらの利活用による賑わいづくりなど、更なる魅力向上に向けた活動を、市民、事業者、行政が一体となって取り組むことで、まちへの誇りや愛着を高めていきます。

公共空間を活用したｵｰﾌﾟﾝｶﾌｪ

**【様々な活動を発展させる広域的なエリアマネジメントの展開】**

- 新しい都市活動の担い手などが都心臨海部で活躍しやすいよう、既存のエリアマネジメント組織などと活動をマッチングする全体のプラットフォームづくりに取り組みます。
- 都心臨海部を舞台とした横浜トリエンナーレ等の大規模イベントや、国際会議の開催など、国内外からの注目度の高まる時期等では、都心臨海部全体が一体としてシティ・セールス・プロモーションに取り組むような広域的な体制づくりに取り組みます。




広域的なエリアマネジメントの展開イメージ

**【都心臨海部ならではの活動で繋がる人・コミュニティづくり】**

- 子どもからお年寄り、外国人まで、多様な人々が訪れ・働き・暮らす都心臨海部においては、自治会町内会や管理組合等の住民コミュニティ、就業者コミュニティや商店街等の地域の様々なコミュニティの充実と併せて、それらのコミュニティ相互の連携強化を図ります。
- 文化・芸術・スポーツをはじめとする様々な市民活動や、NPO 活動等を支援・促進する仕組みづくりに取り組むことで、多様な趣味や目的を持つ人々が出会い・繋がる、豊かなコミュニティづくりを進めます。

グランモール公園
円形広場でハマこい踊り

アーティスト・
クリエイターとの交流会 ※出典１４

NPO による
高島水際公園生物調査

- 水辺に面する立地特性を活かし、レクリエーション等活性化水域を中心に、水上交通や観光船の充実、カヌーやシーカヤックなどの様々な活動、イベントを促進し、水辺をきっかけとしたコミュニティの育成に取り組みます。

レクリエーション等活性化水域の範囲

船上における JAZZ 演奏 ※出典１５

水辺におけるレクリエーション活動
（大岡川でのカヌー）

## 出典

| | |
|---|---|
| ※1 | townphoto.net |
| ※2 | 横浜市　HP |
| ※3 | Wikipedia |
| ※4 | Marina Bay Sands　HP |
| ※5 | FABLAB BARCELONA　HP |
| ※6 | ｼﾄﾞﾆｰ市　HP |
| ※7 | Vancouvernotvegas.ca　HP |
| ※8 | 横浜観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ･ﾋﾞｭｰﾛｰ　HP |
| ※9 | Singapore 教育省　HP |
| ※10 | Federation Square　HP |
| ※11 | BEHNISCH ARCHITEKTEN　HP |
| ※12 | HafenCity　HP |
| ※13 | セグウェイジャパン株式会社　HP |
| ※14 | 公共公益財団法人横浜市芸術文化振興財団　HP |
| ※15 | 一般社団法人横浜みなとみらい 21　HP |